



宿南地区自治協議会総会 開催

4月28日(金) 令和5年度宿南地区自治協議会総会が、ふれあい倶楽部で4年ぶりに通常開催されました。運営委員69名中、出席39名委任状21名で総会成立宣言に続き、議長(高木教行様)進行のもと第1号議案～第6号議案まで、すべて原案のとおり可決されました。

自治協議会役員、及び専門部会部会長・副部会長、並びに事業計画をここに報告します。

【宿南地区自治協議会役員】

役職名	氏名	備考
会長	維田 浩之	口三谷区長
副会長	木下 計介	町 区長
会計	藤盛 頼幸	川西区長
理事	内海 博	寄宮区長
	片山 博文	川東区長
	西田 教之	門前区長
	多田 勝俊	青山区長
	太田垣 均	奥三谷区長
	西田 雄一	地域づくり部 部会長
	宇和野 勝幸	体育部 部会長
	齋藤 綾	文化部 部会長
監事	西田 毅	福祉部 部会長
	内海 博	
	西田 教之	

【宿南地区自治協議会専門部会】

専門部会名	役職名	氏名
自治振興部	部会長	維田 浩之
	副部会長	木下 計介
地域づくり部	部会長	西田 雄一
	副部会長	桑原 一憲
体育部	部会長	宇和野 勝幸
	副部会長	高木 将人
文化部	部会長	齋藤 綾
	副部会長	原 友紀
	副部会長	西田 めぐみ
福祉部	部会長	西田 毅
	副部会長	田中 美晴

【事業計画】

日程	行事
7月 1日	ボウリング大会
7月 2日	農家日役
8月 14日	盆踊り大会
9月 17日	宿南地区総合運動会
10月 29日	村民号(京都方面)
11月 19日	文化祭
2月 24日	ボウリング大会

※主な行事のみ記載しております。
 開催要項等はその都度お知らせします。

養父市議会報告会

5月1日(月) ふれあい倶楽部ホールにおいて養父市議会報告会が開催されました。14名の参加で、議会報告の後の意見交換会では、活発に質問や意見が出され予定時間を少し超過して終了となりました。



身近で見られる植物 ②④

コガクウツギ〈ユキノシタ科アジサイ属〉



今の時期、三谷や青山に向かう道沿いの林縁に白い花が目立ちます。白のは花卉ではなく装飾花で、アジサイの飾り花と同じです。花の香りは、あまり良いとは思えません。名前を漢字で書くと、「小額空木」と書き

ます。この季節、様々なウツギ（空木）の木が花を着けています。空木の謂われは、木の中が中空になっているからです。他にどんなウツギがあるか？そして、それぞれのウツギの枝を切って、本当に中が中空か？確かめてみて下さい。



福祉部会 開催

5月10日（水）第1回福祉部会を開催しました。コロナも5月8日から季節性インフルエンザと同じ第5類に移行されました。以前のようにイベントを開催し多くの皆さんに楽しんでいただきたいとのことで、『そうあんの里 夏のつどい』を計画しました。7月16日（日）10時からの予定ですが、詳細・募集チラシは6月15日の配布になります。当日は、喫茶 ひまわり も臨時営業いたします。今から予定に入れていただければ嬉しいです。



お知らせ

5月16日（火）ふれあいの日
5月17日（水）営農組合指導による小学校田 田植え
5月24日（火）こども園 泥んこ遊び
6月4日（日）但馬10万人クリーン作戦



草庵先生紹介

日記 51



青谿書院の近くでは、コウノトリも猿もいがみ合わないで仲良くしていた。

宮崎和夫さん作

コウノトリが、多くの人たちの努力によって再び日本の空に帰ってきつつある。青谿書院の近くの養父市八鹿町伊佐地区のコウノトリ放鳥拠点施設でも、育てていた幼鳥2羽が7月下旬に放鳥された。（※注）かつて青谿書院の前の山にもコウノトリがやってきて、池田草庵を楽しませていた。

「前の山の峰に、高くそびえている松の木がある。その枝の上に鶴が来て巣を作りすんでいる。書院からこれを見ると、この付近の風景が何倍もすばらしいものになる」（「偉業餘稿」164条）

草庵が「鶴」と書くのは、コウノトリのことだ。前の山の一本の松の木にコウノトリがすみつき、草庵を喜ばせている。日記の中にはコウノトリのことは出てこないが、草庵はコウノトリに親しみを持ち、詩や文章にはよく書いている。「鶴」という漢詩には次のようなことを書いている。「私の土地にはもともとコウノトリはいなかった。あちこちに網をしかけて捕らえる人たちがいるので静かなここに来て遊んでいるのだ。谷川で水をつついて魚を食べ、風を受けて休み、俗世間から離れて楽しんでいる。世間から離れているのは私もだ。私もおまえと一緒に高く飛び立ち広々とした雲の中にはいりたいものだ」（「草庵全集」から。漢詩はすべて意訳） 次の漢詩はコウノトリと猿についてである。書院の周辺に、コウノトリだけでなく、猿もやって来ていたのだろう。「最近思うこと」という題で書いている。

「ここではコウノトリと猿はいがみ合わないで仲良くしている。一緒に松風や小川の響きを聞いている。この山を一步出れば、安心してすめるところはない。どこに行っても大きな鯨が暴れ回っているから」（前掲書から）

時代は幕末で、国内で争いが起こっていることを、「鯨が暴れ回っている」と表現している。草庵は、コウノトリが猿とも仲良く過ごしているように、人の世も互いにいがみ合わないようになってほしいと願っているのだ。

（※注2017年）

池田草庵先生に学ぶ会